

練馬区の将来像を考える区民懇談会  
環境まちづくり分野分科会  
第2回 議事概要

日時：平成19年10月4日（木）18:30～20:30

場所：練馬区役所本庁舎19階1902会議室

**出席者【50音順】**

浅野祐介、市川哲也、上野定雄、加藤眞一、要久美子、高津智美、小林俊彦、関口陽一、  
田中麻起子、平田英二、福澤節三、蒔田實、松島修三、森田康裕、柳洋子、渡邊義雄

**1. 区事務局より連絡**

ー区事務局から、議事概要の取り扱いおよびホームページ等での公開方法、自己紹介シート  
の取り扱い等について説明した。

**2. 配付資料の概要について**

ー区事務局から、配付資料について説明した。

**3. 討議**

**(1) ステップ1：本日のプログラムの説明と振り返り**

ーコーディネーターの原田氏から、本日のプログラムについての説明と前回の懇談会の振  
り返しを行った。

**(2) ステップ2：課題や資源、将来像・目標・大切にしたい視点などの検討  
と意見交換**

ー前回の自己紹介シートから整理した資料をもとに、各自で練馬区の課題や資源、将来像  
・目標・大切にしたい視点などについて検討し、各自90秒～2分程度で発表を行った。

**【発表内容】**

**○委員**

- ・安全・安心なまち 誰もが生活しやすいまちであることが重要である。中でも、高齢者  
や障害を持っている人を第一に考えないといけない。
- ・少子化が進んでいるとはいえ、子どももたくさんいるため、こうした人たちが安全に暮  
らせる、安全に配慮したまちづくりをしていく必要がある。
- ・練馬区のナンバーワン・オンリーワンというものと、練馬区の環境・景観・公園・緑化  
といった特徴を生かした練馬区独自のまちづくりを進めていく必要があると考えてい  
る。

### ○委員

- ・課題として、リサイクル関連施設の誘致場所がないことがあげられる。仮に土地があったとしてもマンション業者との獲得競争に負けてしまうことも多い。今後人口も増えるので、特に重要な課題となる。
- ・練馬区民の資源の出し方は非常に良いと感じており、これは行政の指導と区民の資質によるものだろう。
- ・商店街が、大型店の出店により活気を失っている。若い人が参加して再活用出来るような取り組みを通じて、商店街の再生を進められると良い。
- ・区内には多数の農家があるが、生活は厳しいと聞いている。みどりの保全という観点からは農地も重要であり、農地の現状と課題を知ることで、農地保全、ひいてはみどりの保全につながっていくのではないかと。

### ○委員

- ・まちを綺麗にしていきたい。練馬区ではポイ捨て禁止条例が施行されているが、それを理解していない区民もいる。
- ・毎朝近所の道路の清掃を行っているが、ポイ捨てが少なくなっていない。そこで、区民の方に呼びかけて一斉清掃を実施した。こういうことを、進めていくことで、綺麗なまちを実現したいと考えている。
- ・町会・自治会と区の連携も重要。今までの時代の中で、今が一番お互いに理解し合って活動を展開しているのではないかと思う。今後とも十分に連携していかなければ、区の発展もなければ町の発展もないだろう。

### ○委員

- ・環境美化推進委員などを兼ねている。
- ・歩きたばこを消さないで捨てている人も増えているが、危険であるしまちも汚くなるため、改善が必要である。
- ・各駅で清掃班を組織して活動しているため、そういう人を見かけたら声を掛けて欲しい。
- ・バリアフリーマップをつくったが、有効に活用されていない。
- ・障害者と健常者が一緒に清掃しているが、まだまだ障害者の方が心を開いていないところがある。一緒に活動していきたい。
- ・また、子ども達とともに活動していきたい。

### ○委員

- ・練馬区のまちづくりセンターの助成を受け、「練馬 都森化 300 年計画」を立案し、その普及のための絵本づくりを進めている。
- ・練馬は広い大地と川しかなく、江戸としての名残はない。あくまでも新興住宅地でこれといった観光地ではない。
- ・こうした状況で、かつて石神井川の両側に広がっていた桜並木や田圃があった空間を取り戻し、誰でも入っていける公共のスペースにしたいと考えている。
- ・また、同じ地域にしながら家族の年代や世帯構成の変化に応じて住む場所を変えていけ

るような、「横穴式住居」を構築し、その屋上を緑化することで、失われた農地を取り戻していきたい。

#### ○委員

- ・消費者だよりの「プリズム」に携わっている。
- ・2年前に豊島区から引っ越してきた。その時に感じたことは、みどりが多いことと車が多いことであった。自転車で移動しているが何度も車にひかれそうになった。
- ・どの年代の人でも、せめて道路だけでも安心して歩けるまちにしたいと思うはずである。
- ・また自転車で移動が多いが、駐輪場がなく、あっても満車のことも多い。環境や交通安全のために車の量を減らすことを考えると、移動手段として自転車が重要になり、駐輪場が大きな課題になるだろう。

#### ○委員

- ・議論するターゲットを絞った方がよいと思っている。環境という言葉には全てのことが含まれてしまう。いろんな分野があり、それを全てをまとめるのは難しいと思う。みどり、交通、安全などのテーマを絞るか、テーマ毎のグループにわかれて議論した方がよい。
- ・中身についてはテーマが決まれば議論したい。

#### ○委員

- ・練馬区に住むようになってから約5年半である。緑被率が下がっているというデータもあったが、23区の中ではみどりが多い方であると思う。
- ・農地を守るための協定や屋敷林を守るために区で買い上げるなど、練馬区においても様々な取り組みをしているが、子どものためにも今後とも、みどりの減少を食い止めたい。
- ・自転車がなくて歩きにくいと思うことも多いが、自転車は環境に優しい乗り物なので、違法駐輪を減らしながら、環境を守ることと利便性の確保の両立が重要だと認識している。

#### ○委員

- ・アメリカの大学院で都市計画を専攻したが、今は専業主婦である。
- ・練馬区民となって6年になる。新宿区から転入して感じたのは、みどりが多いことであった。その一方で緑被率は下がっているというデータがあり、こうした資源を大事にしていきたい。
- ・23区内で農地が残っている区であることも、練馬区の特徴であると思う。農家の高齢化の問題などにより、農業を維持することが難しいと思うが、歴史という意味から残していきたい。
- ・光が丘に住んでいて身近な問題として感じていることとして、機能的なまちであるが、交通事故が多いことである。また、先ほど話にもあった自転車の問題についても感じている。

### ○委員

- ・文化財保護のボランティアをやっている。
- ・練馬区はみどりが多く、練馬の名木や憩いの森などがある。こういうみどりは、江戸時代に江戸の近郊農村として発展したことによると思う。
- ・練馬区は江戸から東京に至るまで、ビタミンの供給地であった。それは野菜のビタミンであり心のビタミンでもある。今後とも、こうしたビタミンを提供していけるまちであり続けたいと思っている。
- ・今後のまちづくりのキーワードは「ふるさと」であると思う。ふるさととはご長寿さんがいて子どもが住み続けられるまちであり、その前提として「土壌」があるということが前提だと思う。土と生きるまちということを守り続けていきたい。

### ○委員

- ・もと銀行員であり、現在は自動車の部品メーカーに勤務している。
- ・区民農園に参画しており、耕作する喜びを感じることができた。データによると、都内の農地面積についてナンバーワンであるが、年々減少しているそうである。この点について今回の会議では議論していきたいと思う。
- ・練馬区の一人当たりの公園面積は、23区で17番目である。これについて検討する必要がある。
- ・甥が都市計画の先生をしており、道路渋滞が激しいから道路を広げるべきだという話をすると、自動車を減らすことをすべきだと言われた。こうした、環境と利便性の両立をどのようにすべきかの議論が必要。

### ○委員

- ・今回の成果が計画体系の最上位に位置すべきものであると認識しており、先ほどの発表のように、重点化すべき項目を検討すべきだと思う。
- ・具体的な内容についてみると、区内に水源のある一級河川である白子川の親水公園化と周辺環境の改善・保全に取り組むべきではないかと思う。これは練馬の本当の財産である。
- ・また、今後都市型水害が増えていくと思う。それに対して、当然、総合治水が必要になるが、コンクリート護岸にしたり、下水に水をすぐに流すだけでは環境保全にならない。治水は必要だが環境保全と両立できるような新しい概念を導入していただきたい。
- ・白子川の源流には鮎も戻ってきているが、雨が降ると汚水が流れこみ水質が悪化する。また平常時に水量が確保できるのかということも問題となっている。
- ・また、どう実現するか、実現の方法を今後詰めるということ、最後に報告書の中に付け足したいと思う。

### ○委員

- ・都市マスタープランや長期計画などに目を通した。そうすると、立派なものではできていて、個別のテーマや予算などもきっちり考えられているように感じた。
- ・1区民の立場から思うのは、10年後、30年後にどんなまちになっているだろうか、住み

やすい町になっているだろうかというイメージがわからないことであり、この点を今後のこの会議で考えるべき課題だと思っている。

- ・区民の立場で安心して行政に任せられるイメージをつくる必要があると思う。
- ・そのためにはマーケットインの考え方からテーマを考えていくことが必要である。行政側からどういったサービスを提供できるかという観点もあると思うが、区民が何を望むかを念頭に30年後の練馬区のあるべき姿を想定して、それに対して着々と進めていくことをしていただきたい。
- ・高齢化の進展が非常に進んでいる。このままいくと、30年後には相当の高齢者がいることになる。その中で我々の暮らしはどうなるのか。小学校の閉鎖、団地の高齢化、独居老人の増加などの変化に対する対応策を考えていく必要がある。実際に、ある団地に行くと非常に高齢化が進んでいた。今後どこもこうなる可能性がある。
- ・将来像としては、企業価値を最大化するという観点から、練馬区の価値を最大にするために何をすべきかを考えると良いと思う。
- ・練馬区に移り住んだ最大の要因はみどりである。しかし、みどりはずいぶん減っている。公園はあるが、周辺の空き地も農地も減っている。
- ・地域の自立性を高める、地域でものごとを解決出来るようにすることが重要。

#### ○委員

- ・公園・みどりに関しては、直近の緑被率が26%である。みどり30推進計画により、緑被率を30%にするとしているが、そのためには練馬区の公園を倍増することに匹敵するほどの緑地の創出が必要となる。しかし、公園面積は計画では5haしか増えないことになっており、実現する可能性が低く、計画としては失格ではないかと思う。
- ・農地も減っていく中で、どのようにして30%を達成するのが重要である。
- ・道路は、車のためというイメージがあるが、生活幹線道路を中心として整備が必要である。
- ・練馬駅前には地区計画があり高さ制限があるが、広告物が規制されていないため、高さがまちまちである。都市空間の自由な利用という考え方とは対立するかもしれないが、100年後に評価されるようなまちづくりを進めたい。
- ・練馬区の資源は農地であり、周回遅れから時代の先端を走るトップランナーになるチャンスだと思っている。

#### ○委員

- ・みどりというが、みどりの具体的な内容としてなにをとらえるか。民有地の小さな植木、家の中での鉢植え等まで考えられるのか。
- ・水とみどりと生物の関係性を問う必要がある。
- ・みどりと生活という観点から、生活ということは何かということをはっきりとすると、みどりがなぜ必要なのかということがわかってくると思う。

#### ○委員

- ・練馬区はインフラ整備などが十分でないと思う。西武池袋線の高架・複々線化について

も、かつて大泉まで計画があったが石神井から西が実現できておらず、利便性が大きく損なわれている。

- ・他方、自然との共生も重要なテーマである。八坂神社の周辺など、貴重な財産が数多く残っている。これらは積極的に残ったというよりは交通利便性が低かったために結果的に残ることが出来たものだと思う。今後、保全に向けた積極的な対応が必要になると考えている。

### (3) その他

ー今後の進め方等について意見交換を行った。

#### ○委員

- ・基本構想はあらゆる計画の上位に位置するものであるため、哲学のようなものを参加者で合意しておくことが必要である。
- ・また、テーマをある程度絞って議論すべきではないか。

#### ○事務局

- ・練馬区としては、基本構想の全ての内容について深く議論していただきたいという考えは持っていないが、様々なご意見をお伺いしたいと考えており、最初からテーマを絞るのではなく、コーディネーターによるとりまとめのもと、自ずと絞られてくる。
- ・10年後、30年後というイメージという意見も出されていたが、こうした点についても今回の議論の中で次第に明らかになることを期待している。

#### ○原田ファシリテーター

- ・まずは、全体として皆さんの考え方を知り合うことが成果だと思っている。
- ・回数が少ないというイメージもあると思うが、今回はこれを持ち帰って整理した上で、次回以降に少し絞った議論をしていきたいと思っている。

#### ○委員

- ・自由に意見を出し合っていくうちに、関心が高いもの低いものの差が明らかになっていき、まとまっていくのではないか。

#### ○委員

- ・事務局で今回の意見をクラスター化していただき、クラスターごとに議論をしていけばよいのではないか。

#### ○委員

- ・次回以降クラスターごとに議論することでよいと思うが、今回の懇談会でどのような内容を検討する必要があるのか。
- ・基本構想であれば、通常、実現方策については記載しないと思うが、どこまで具体的な検討が求められるのか。

#### ○事務局

- ・まずは、どういう将来像を目指していくのかについて幅広い視点を出していただきたい。基本構想はまず将来像を指し示すものであるため、将来像の検討が第一の目的である。
- ・一方で、将来像だけを検討することが難しい場合には、取り組みについても検討していただきたいが、取り組みについては、全ての分野について網羅的に検討するのではなく、将来像の検討で絞り込んだ分野についてのみ掘り下げていただければと考えている。

#### ○原田ファシリテーター

- ・ここで実現方策まで検討するものについては、テーマを絞っていきたいと思う。

#### ○委員

- ・前に都市計画マスタープランを配ったらということを指摘したが、現在水辺ふれあい計画をまとめているところだと思うので、それを出していただくことはできないか。特に区民から様々な意見が出されているはずであり、そういった意見を踏まえることも必要ではないか。

#### ○事務局

- ・ご要望のある資料については適宜提供していきたい。一方で様々な年代、地域の区民の方にお集まりいただいており、区の現行の計画等にはあまりとらわれずに、それぞれ日ごろ感じておられることをもとに区の将来像についてご議論いただきたい。

#### ○委員

- ・今の計画に縛られる必要はないのではないか。

#### ○委員

- ・区民の意見を募集している。その内容を知っておけば、同じ議論をしなくても良い。

#### ○委員

- ・一つのテーマについて議論するだけでも、3～4回ではまとめられないのではないか。
- ・うまくやり方を考えないと、次年度の審議会のための懇談会になってしまう。

#### ○委員

- ・コーディネーターがまとめたものを、残りの中で議論し、更に追加の意見があれば議論することでよいのではないか。ある程度、方向性を引っ張っていただいた方がよい。

#### ○原田コーディネーター

- ・農地、みどりなどの分野別の分け方ではなく、高齢者や子どもたちが一緒に暮らすなど、より上位の概念が含まれていると感じており、それが将来像となっていくと思う。
- ・今回の意見では、例えば道路という問題であっても、駐輪場の整備だけではなく、自転

車の活用を円滑にするための仕組みの整備など、幅広い意見が出されている。

○委員

- ・駐輪場といっても、小さい子どもが扱う自転車と若者、高齢者それぞれが利用する自転車に対して、求められるサービス水準が異なる。同じ駐輪場に入れることは無理である。そう考えると基本にあるのは生活の問題であると思う。

○原田ファシリテーター

- ・誰かのためではなく、「誰もが」とか「みんなが」というキーワードでとらえることが重要か。

○委員

- ・23区の中での練馬区がどうかということを考えないといけない。練馬区として魅力を高めるものであるためには、「誰もが」では魅力にならず適切ではない。むしろ練馬らしさということを念頭に置くべきではないか。

○委員

- ・区民は様々であり、特定の層にターゲットを絞り込むことは難しい。みんなが暮らしやすい環境があって、加えて、練馬区にはこういった魅力があるということが付け加えられれば良いのではないか。

○委員

- ・たとえば、魅力を高めるためには「自慢出来るまち」、にしていくことが重要だと思う。例えば、昔は練馬区は「涼しいよ」と言う事ができた。こうしたことでもよい。

○委員

- ・例えば高齢者が安心できるといえば、みんなが安全に住める町になるし、子どもが育ちやすいまちとなれば子どもを育てる親にとっても住みやすい場所となる。キーとなる人を設定しないと全体がぼやけてしまうのではないか。

○委員

- ・農地の話が出てきたが、練馬に住めば区民農園は必ず確保できるとかということをすればよいのではないか。

○委員

- ・そのためにも石神井川の低地をナショナルトラスト方式で買い戻し、現在、住宅地になっているところを区民農園として活用したい。
- ・そうすれば増水しても被害は小さいし、自分が住んでいるところで田植えができることは非常に魅力的である。
- ・また、高齢者と若い人が同じ場所に住みあえる方法を考え、その住宅の上を緑化してい



くことで、都市緑化の問題を解決できるのではないかと思う。

- ・高密度化して、近代的な生活かもしれないが、人も多いし、ごみごみしているところに、水のあるゆとりのある空間を作ることの方が、区民にとっては良いのではないかと思う。

#### ○委員

- ・湧水が非常に多い。湧水の確保をどのようにするのかということが、自然災害対策であるし、みどりの保全につながるかもしれない。

#### ○委員

- ・これからは車に頼るだけではない。住宅地の中には、自動車を規制することもあると思う。そうすると、自転車専用道路とか、自転車の安全性を高めるようなシステムを区で作っていかなければならない。
- ・どのような移動の仕方を重視していくかについて、考えていかなければならない。

#### ○委員

- ・進め方のお願いであるが、議論の進行にあわせて、進め方の予定が変わるのは当然あり得ると思うが、方向性についてあらかじめ全員が理解した上で始めた方が、議論が効率的であるため、次回のテーマについて事前にお伝えいただきたい。

#### ○原田ファシリテーター

- ・今回は、10月22日（月）に区役所本庁舎20階の交流会場で開催する。内容について整理した上で、案内させていただく。

## 4. その他

- －第4回の日程について調整した。
- －第4回の日程は11月21日（水）東庁舎603会議室に決定した。